

実地踏査の結果概要

1. 目的

J R 立川駅、多摩モノレール立川北駅及び立川南駅、南北バスのりばを含めた立川駅周辺の利用者の移動をスムーズに行えるよう案内サイン（地図、誘導、位置等）等の見直しのため、立川ターミナル周辺のサイン計画（案）の検討を進めている。

サイン計画（案）の作成にあたり、立川ターミナル内(交通結節点)を利用者（「来街者/初めて立川駅を訪れる方」「市外障害者団体」「市内障害者団体」）に実際に移動してもらい、その中で様々な視点で気付いた課題等の把握するため、次のとおり調査を実施した。

2. 実施概要

参加者		日時・場所	目的	調査方法
来街者	合計：12 名 来街者（4 名） 協議会委員（2 名） 事務局等（6 名）	平成 30 年 10 月 17 日 14 時～ 立川駅周辺	○初めて立川ターミナルを訪れた方が主要な交通施設間を既存サインのみを活用して移動ができるかの検証	○起終点のみを参加者に知らせ、既存サイン等を活用（携帯端末の利用は不可）して 1 人で移動し、その状況を事務局が同行して把握。 ルート移動後に地図サインの確認（アンケート）と意見交換
市外 障害者 団体	合計：19 名 市外障害者団体（9 名） 協議会委員（2 名） 事務局等（8 名）	平成 30 年 11 月 9 日 9 時 30 分～ 立川駅周辺	○既存サインの色彩（文字と地色や周辺環境との見え方）や設置位置や設置方法の状況の把握	○起終点となる 5 つの交通施設間を参加者と移動し、そのルート上に設置されている既存サインを確認 ※移動後に意見交換
市内 障害者 団体	合計：21 名 市内障害者団体（13 名） 協議会委員（3 名） 事務局等（5 名）	平成 30 年 8 月 3 日 14 時～ 立川駅 北口周辺	○交通施設間を繋ぐ主要なサインについて、各障害による見え方や感じ方等の状況の把握	○交通施設を結ぶ主要ルートを参加者全員で移動し、そのルート上に設置されている既存サインを確認。その際に、障害にあわせて E V、階段に分かれて移動し、両方の状況を確認 ※移動後に意見交換
	合計：19 名 市内障害者団体（9 名） 協議会委員（2 名） 事務局等（8 名）	平成 30 年 10 月 10 日 10 時～ 立川駅 南口周辺		

3. 参加者別調査結果

【来街者】

(1) 調査概要

調査日時	2018年10月17日（水）／14時00分～16時30分
参加者	合 計：12名 初めて立川駅を訪れた方（学生）：4名 協議会委員： 2名 事務局等： 6名
調査場所	J R立川駅 周辺
調査対象	北口2ルート、南口2ルートの系4ルート ※参加者1人に付き、南北各1ルートで実施（モノレール駅とバスのりば） ※ルートの詳細は下記参照
調査方法 ・ 手順	起終点のみを参加者に知らせ、既存サイン等を活用（携帯端末の利用は不可）して1人で移動し、その状況を事務局が同行して把握。 ルート移動後には地図サインの確認（アンケート）と意見交換。 手順1. ルート移動 ※事務局スタッフは同行のみ ・参加者1人で設定したルート（南北各1ルートづつ）を起点から目的地に移動 ・参加者1人に対してスタッフ1人が同行し、移動手段を確認 ■ルート移動時の主な確認事項 →参加者の移動ルートや利用したサインの確認、移動時に迷った分岐点等のチェック 手順2. 地図サインの確認 ・地図サインの表示内容に関するアンケートを設置場所で実施



(2) ルート移動の設定ルート（4ルート／南北2ルート）

方面	NO	起点	目的地	上下移動	通常時間	制限時間
北口	①	○J R立川駅（西改札・東改札） 南北自由通路	○北口バスのりば⑩ →昭島駅南口行きのバス停	有	10分	20分
	②	○J R立川駅（北改札） 西側新自由通路	○多摩モノレール立川北駅	無	5分	10分
南口	③	○J R立川駅（西改札・東改札） 南北自由通路	○多摩モノレール立川南駅	無	5分	10分
	④	○J R立川駅（北改札） 西側新自由通路	○南口バスのりば⑤ →国立駅南口行きのバス停	有	10分	20分

※バスのりばが目的地の場合は、のりば番号ではなく「〇〇行きのバス停」という目的地を提示

○推奨調査対象ルート（来街者）

☆ 起点

★ 目的地

●●●●●

ルート①

●●●●●

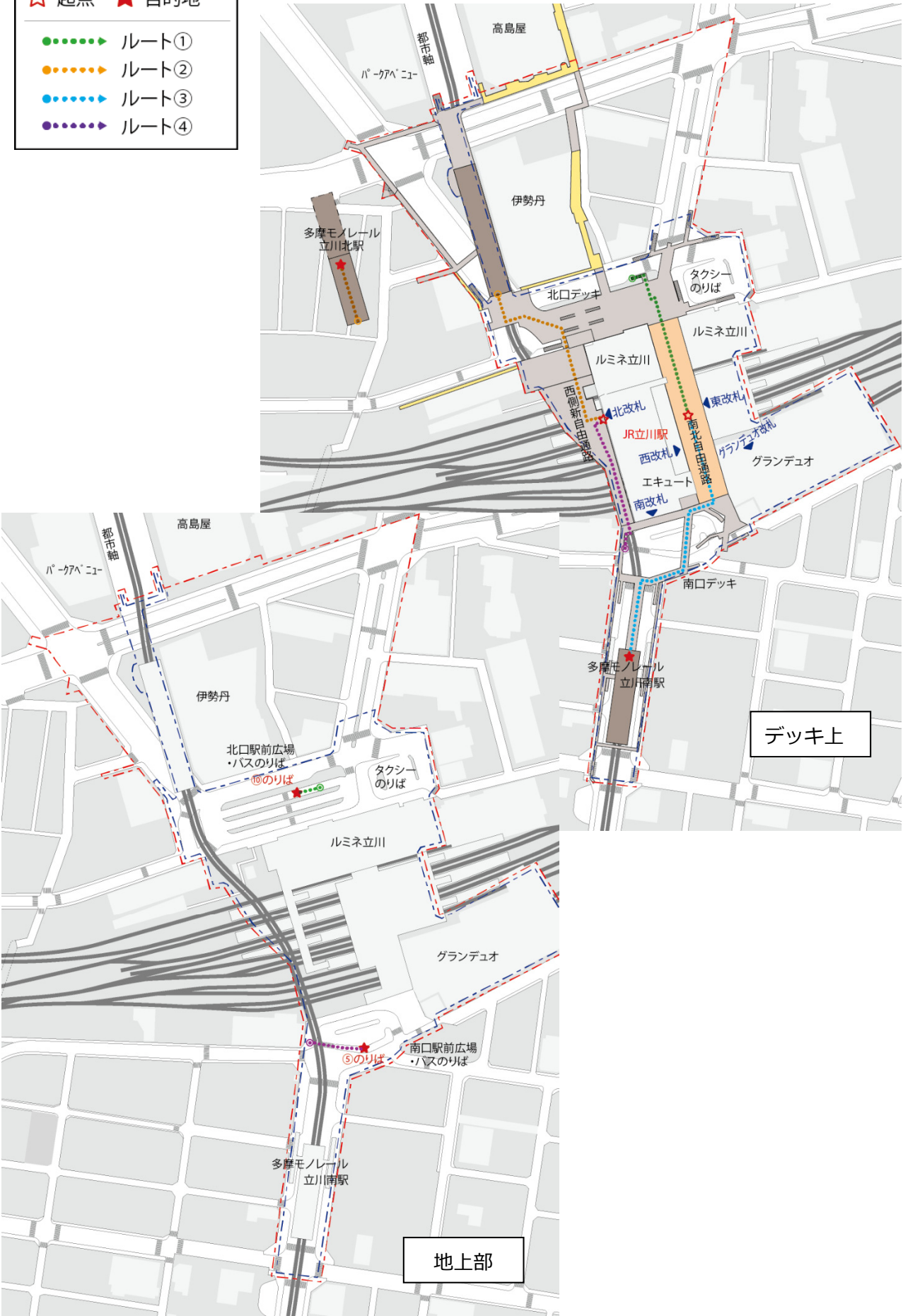
ルート②

●●●●●

ルート③

●●●●●

ルート④



(3) 調査結果

①ルート移動の状況

参加者	ルート	要した時間	調査結果
A 男性 24 歳	北口①	5 分	目的地の名称から南口に向ったが、すぐに気付き起点に戻り、その後は推奨ルートと同ルートで移動し、その際には事務局が想定したサインを利用して、目的地にたどり着いた。
	南口③	8 分	推奨ルートと同ルートで移動し、その際には事務局が想定したサインを利用して、目的地にたどり着いた。
B 女性 21 歳	北口①	時間超過	目的地を誤り、その確認に大半の時間を費やしたことで、気付いた時点で設定時間の 3/4 程度を使い切ってしまった。その後バス案内を確認したが、目的地にはたどり着けなかった。
	南口③	7 分	視認ミスにより一度北口方面に向うが、その後は目的地に向って移動し、推奨ルートではないが駅舎（位置サイン）が見えるルートを使い目的地にたどり着いた。
C 男性 24 歳	北口②	3 分	起点での地図サインの確認後、推奨ルートを移動し、迷うことなくスムーズに目的地にたどり着いた。
	南口④	18 分	目的地は南口だったが、数多くバスのりばがある北口に向かい、そこで各のりばで確認を行ったことで大半の時間を費やしたが、南口バスのりばの存在に気付き、時間内に目的地にたどり着いた。
D 女性 19 歳	北口②	3 分	起点でのサインが少なく戸惑っていたが建物を目印に移動し、モノレールの位置サインを確認の上、推奨ルートを移動して目的地にたどり着いた。
	南口④	20 分	バスの情報が得られない起点周辺や目的地と異なる北口のバス情報の確認に約半分の時間を費やしたが、南北自由通路の位置サイン情報を経て、時間内に目的地にたどり着いた。



○実施状況

- ・モノレールの駅については、デッキ上から駅舎が視認できることから、サインによる案内がない状態であっても、全ての参加者が目的地に移動することができた。ただし、分岐点や長い直線などでの誘導や遠方からも視認できる場所に位置サインがあるとよりスムーズな移動が可能であることが分かった。
- ・バスのりばについては、両起点ともバスの行先に関する案内がなく、南北の両デッキ上においても設置位置がわかりにくいことから、全ての参加者が起点及びデッキ上で戸惑う結果となり、1 名を除く参加者が目的地までの移動に多くの時間を費やすこととなり、既存サインのみではスムーズな案内が困難であることが分かった。（1 名は制限時間内にたどり着けず）。

②ヒアリング結果（実地踏査後に実施）

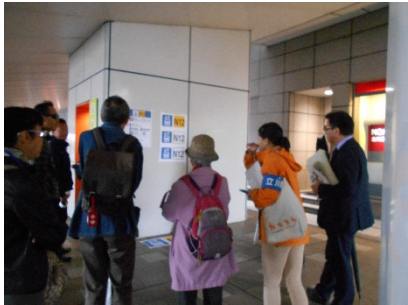
項目		主な意見等
○目的地までに必要な情報について。（起点、分岐点等）		・細かく書かれた地図等の案内ではなく、シンプルで大きなマークのようなものがあれば、どの世代でも、外国の方でも分かりやすいのではないかと思った。 ・特に起点には、バスのりば、行先など詳細な情報が欲しかった。 ・分岐点には、手前で矢印やピクト等で案内してもらえると安心できると思った。 ・方向指示と施設名称が連続して表示されると良いと思った。 ・南北の両方に、モノレール、バスのりば、タクシーがあるが、起点での案内が似たような表示になっており、非常に分かりづらいと思った
○目的地まで順を追ったサイン設置について（連続性）		・JR 立川駅の改札を出て、両側のどちらにもバスのりばがある場合は、もっと工夫されたサインの設置をした方が良いと思った。 ・モノレールの駅については、駅舎は見えるが、サインは継続的に設置していないところもあり、正しいルートが不安になった。
○既存サインの設置の状況について（視認性、顕示性）		・道路（歩道）と並行に設置されているサインについては、歩く方向によっては見えにくいと思った。（並行設置等） ・立川南駅については、駅舎に大きく表示されていたが、文字色と壁面色が似たような色のため、見えにくいと感じた。 ・バスのりば・行先等の情報不足を感じた。モノレールへの案内についてももう少し合った方が良いと感じた。 ・北口の柱に設置されているバス案内については、文字の情報量が多く、読む気にならなかった。 ・北口のバスのりば（行先等）の案内は設置場所が分かりづらく気付かない。
○表示面等の見やすさについて（統一化等）		・文字が多く書かれているものより、絵やマークの方がオリンピックに向けても多様性があると思った。 ・バス・タクシー・モノレールの図記号は分かりやすく、書体や色も見やすかった。ただし、デザインは統一されていないと感じた。
○サイン別	誘導（指示）	・上部のみの設置だけでなく、路面にも表示しても良いと思った。 ・距離表示だけでなく、何分で着くかなどの目安が表示されていると良いと思う。
	位置（同定）	・位置サインがあると、目的地に着いたことを認識できるため、良いと思った。 ・遠くからも視認しやすい位置にあると目印となり、良いと思う。
	地図（図解）	・地図サインは、迷った際に最初に見るものなので、分かりやすさが第一だと思う。 ・地図を見るのが苦手なため、地図が苦手な人も方向などが分かりやすい表記になったら良いと思った。 ・詳細にしてみると逆に見づらいと思った。 ・掲載範囲が広すぎて、距離感がつかめなかった。
○その他		・初めて訪れる場所では、矢印、マーク、周辺の情報があると良い。また、なるべくシンプルな方が分かり易いと思う。 ・目的地をタッチしたら道順を示す、行きたい場所を入力すると同道順を教えてくれるようなデジタル系のものがあれば良いと思った。

③地図（図解）サインに関するアンケート結果

調査対象	場所	南北自由通路／複合サイン	北口デッキ／複合サイン
	掲載情報	地図（周辺案内）、誘導、広告	地図（観光、周辺、バスのりば※）、誘導、広告 ※音声案内有り
	写真		
良かった項目		「大きさ」「掲載施設の内容」 「図記号（ピクト）」「書体」「文字の大きさ」 「地図の色彩」「レイアウト」	「大きさ」「掲載施設の内容」 「図記号（ピクト）」「書体」「文字の大きさ」 「地図の色彩」「レイアウト」
良くなかった項目		「地図の掲載範囲」「情報量」 「言語表記（多言語）」	「地図の掲載範囲」「情報量」 「言語表記（多言語）」
良かったと思った理由		○大きさ自体には問題はなく、見やすかった。 別の人々が後ろから来ても気にせず見ていられると思った。 ○周辺施設の細かな情報があり良かった。	○全体が見える大きさのため、大きすぎずちょうど良かった ○バスのりば案内図があり、わかりやすい ○音声でバスの情報が聞けるので、目が不自由な人にも良いと思った。 ○書体は癖もなく、読みやすかった。
良くなかったと思った理由		○周辺案内の範囲が3kmは広すぎると感じた。 ○地図自体は細かく書かれているのに、バスの表示がなかったので、どこにバスロータリーがあるのかわからなかった。 ○情報量が多すぎて見る気にならなかった。 ○文字が小さすぎると、線を引っ張りすぎて、どこに何があるのか分かりづらい。	○このサインと一緒に、バスの方面などもわかるともっと良いと思った。 ○上部の誘導表示が多言語（日+英のみ）でなかった。 ○文字が小さく、読もうと思わなかった。

【市外障害者団体】

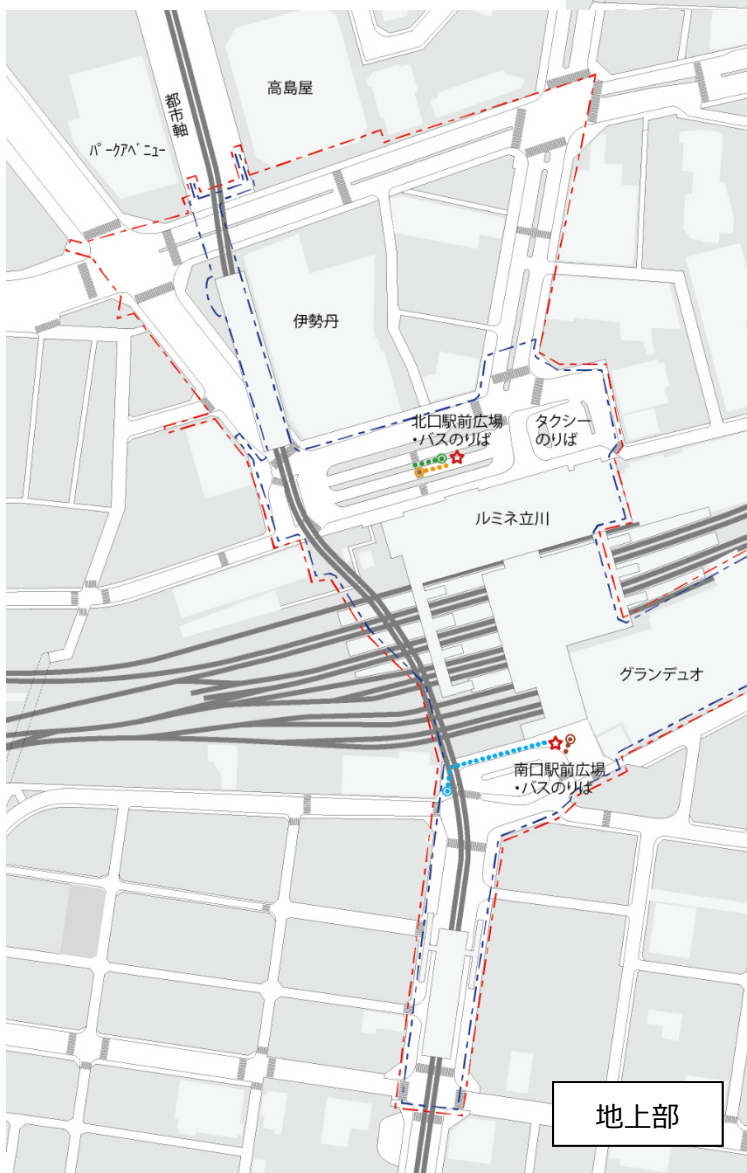
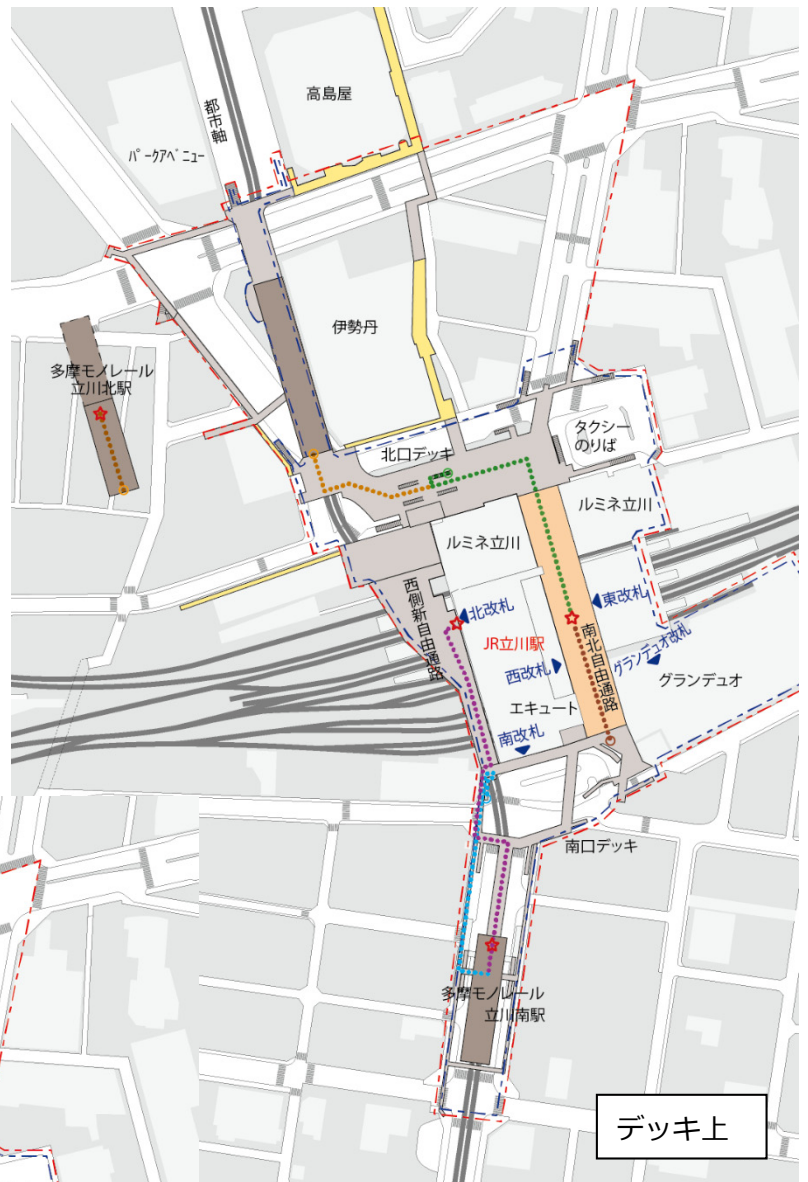
(1) 調査概要

調査日時	2018年11月9日(金) 9時30分～13時00分
参加者	合 計：19名 市外障害者団体：9名 ・色覚関係者：4名(C型：1名 / P型：2名 / D型：1名) ・ロービジョン者：4名 ・介助者等：1名 協議会委員：2名 事務局等：8名
調査場所	J R立川駅周辺
調査対象	ルート①：J R立川駅(北改札) → 多摩モノレール立川南駅 ルート②：多摩モノレール立川南駅 → 南口バスのりば・タクシーのりば ルート③：南口バスのりば・タクシーのりば → J R立川駅(西・東改札) ルート④：J R立川駅(西・東改札) → 北口バスのりば及びタクシーのりば ルート⑤：北口バスのりば及びタクシーのりば → 多摩モノレール立川北駅
調査方法	設定した起点から目的地に向かうなかで、その移動を補助する既存の案内サイン等の状況を確認し、現地でのヒアリング及び調査後の意見交換により現況を把握。      

(2) 主な確認事項

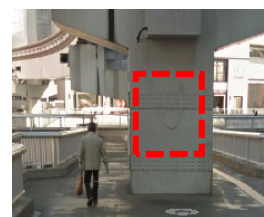
- ・既存サインのベース色と文字色との関係性
- ・サインと周囲の色彩との関係
- ・地図サイン表示方法
- ・既存サインの設置位置(高さや向き等)
- ・既存サインの表示面の情報量、文字の書体や大きさや図記号
- ・試作品の確認(誘導・ナンバリング・EV)

○調査対象ルート



(3) 主な意見要旨

項目	意見要旨（課題や要望等）
全体	・近年はCUD（カラーユニバーサルデザイン）によるサイン計画が進んでおり良くなっていると感じている。今後もその方向性で進んで行って欲しいと思う。【色覚】 ・複数の場所がある場合は、南口、北口よりナンバーなどの誘導の方が理解しやすいかもしれない。【色覚】 ・外観・面積・明るさ等、周りの状況も踏まえてサインの設置位置や表示内容を考えたほうが良い。例えば暗いデッキ下の袖壁にサインを設置しても、外の明るさによりサインの存在が見えなくなる。またお店のネオンサインに視線がいき明るさの調節が合ってしまうと、サインに気付くことができなくなる。【ロービジョン者】 ・主要な誘導は起点できちんと示されていることが重要になると思う。さらに視認できる状態（色や枠取り等）であるとスムーズに移動できる。【色覚】 ・サインと背景（建物壁面等）との色が同化してしまうことがある。周囲を枠で囲むなどの工夫をして欲しい。【色覚】 ・設置時は見やすくても退色等により薄くなることで視認しにくくなることもあるため、定期的なメンテナンスをして欲しい。【色覚/ロービジョン者】 ・新規でサインを設置する場合は、目線の高さにある方が視認しやすい。【色覚】 ・黄色に黒文字は視認しやすい。【色覚/ロービジョン者】 ・南北自由通路に方面を知らせるサインが少ない印象を受ける。既存のサインでは遠くからだと小さく視認できない。【色覚】 ・西側新自由通路（JR立川駅北改札を含む）のサインが不足している印象を受ける。【色覚/ロービジョン者】
誘導サイン	・分岐点にはサインを設置して欲しいが、誘導ブロックをガイドに移動するため、誘導ブロックの正面にあると視認しやすい。【ロービジョン者】 ・内照型タイプは視認しやすいが、周囲が明るい場合（照明や太陽光等）は見づらくなる場合がある。【色覚/ロービジョン者】 ・起点から目的地までの間にしばらく案内がないと方向があっているか不安になる。定期的に設置して欲しい。（西側新自由通路や立川南駅に向うデッキ部等）【ロービジョン者】 ・三連型全ての上部にある誘導サインはアクリルに太陽光が反射して見えない。ビルの陰のように感じる。【ロービジョン者】 ・表示面に複数施設を表示する際は区分線などをしないと、誤認してしまうかもしれない。【色覚】 ・文字や盤面が小さいことに加え、周りの内照型公告が目立ってしまい、視認が困難である。必要な情報が目立つよう配慮してほしい。【ロービジョン者】 ・矢羽サインは色等は問題ないが、設置位置が高すぎると思う。【色覚/ロービジョン者】 ・同一方向の矢印が複数あり、矢印にかかる情報の範囲が不明瞭のため、情報の切れ目がよくわからない。同一方向の情報全体にかかるように矢印を設けるなど、情報の区切りがわかるようにしてほしい。【ロービジョン者】



項目	意見要旨（課題や要望等）
地図サイン	・地図の設置場所がわからない。また、地図のコントラストが小さく分かりにくい。【ロービジョン者】 ・駅周辺の地図については、デッキ上と地上部の二種類が必要だと思う【ロービジョン者】 ・赤色表記の現在地については目立たないかもしれない。反転などで表示方法を変えるとより認識しやすいかもしれない。【色覚／ロービジョン者】 ・地図内で公園や施設など、色分けしているようだが、その意味（凡例無し）がわからない。さらに、色で判断しにくいものを模様の有無で対応しているが、かなり近づかないとその差は判別できない。【色覚】 ・地図サインのベースのコントラストが小さくのっぺりとして見える。道幅を太くするなどの工夫があれば見やすい。【色覚／ロービジョン者】 ・施設により色分けを行っているが判断できないものがある。また、赤や青の地色に黒文字は見えにくい。（現在地表示も同様）【色覚】 ・赤・緑の判別が難しいため、南口・北口の表記（目立たせたいのであれば）が分かりづらい。【色覚】 
位置サイン	・文字を立体表示にすることで視認しやすくなるが、その場合でも壁面との色が近い場合、見えにくくなる場合もある。【色覚／ロービジョン者】 ・立川南駅の位置サインが西側新自由通路から向う際にも見えるような場所に、あると良いとも思う。【ロービジョン者】 ・立川南駅の位置サインが外照のライトにより英語表記が見えにくくなっている。【色覚／ロービジョン者】 ・南北自由通路側に設置してある「JR立川駅」の位置サインは設置壁との色のコントラストが弱く遠くから視認できないが、近くだと文字が大きすぎて文字全体の認識ができない。【ロービジョン者】 ・緑と白の組合せが見づらい。特に文字が小さいと視認できない。【ロービジョン者】 ・バスのりば番号の表示は見え方としては問題ない。ただし、外枠に赤色を使用しているようだがその色味が判断できないため、目立つような印象はない。【色覚】 ・公衆トイレの位置サインは照明付きのため認識できるが、全体がボヤッとした照明のため、正面までこない文字を認識できない。【色覚／ロービジョン者】 ・男女の入り口案内は、女性の色が淡く、壁面と同化してわかりにくい。【ロービジョン者】 ・公衆トイレ入口部分の男女を表示する JIS マークが半分で切れた形になっているのが気になる。【色覚】 

項目	意見要旨（課題や要望等）
バス関連	・バス案内が色分けされているが、その意図がわからないと混乱するかもしれない。また、のりばへの誘導、のりばマップ、方面案内とあるが、並び方や表現方法を含めうまく機能していないような印象を受ける。【色覚】 ・のりば案内のみで、系統や行先などがセットでないと意味をなさない。【ロービジョン者】 ・誘導ブロックがサインへ誘導していないため、サインの存在がわからなかった。【ロービジョン者】 ・バスののりば案内の地図にはタクシーのりば、EV、トイレの記載があると良い。【ロービジョン者】 ・バスののりば案内の地図は、レベルが二つあることでわかりにくい表現となっている。【ロービジョン者】 ・立体で表示されたバス案内で各のりばに行くにはすこし難しいかもしれない。【色覚】    
その他	・視野狭窄があり左右が見えにくいため、前方にサインが設置してあると目に入りやすい。多少位置がそれた場合でも、照明のあるタイプのサインであれば目に付きやすい。【ロービジョン者】 ・内照型・外照型はどちらもメリット・デメリットがある。内照型は明るくて地図としては見やすいが、周りを歩行する際にはサイン以外のところが暗くなり困る。【ロービジョン者】 ・音声ガイドがついているが必要としている人は設置位置の把握が難しいため、それを知らせる音サインなどがあると良い。【ロービジョン者】 ・サインが視認しづらいため、ビーコンや誘導ブロック等にQRコードがあるとスムーズな移動ができる。【ロービジョン者】 ・デジタルサイネージなど、過度に明るいサインはかえって視界を狭めてしまう。【ロービジョン者】 ・人による案内時に、「赤い看板の方」などと安易に色名による案内がされる場合がある。色弱者にとっては、その色名が判断できないケースがある。必要に応じて補助となる文字情報があると良いケースがある。（特に紙媒体の書類など）【色覚】 ・灰色の誘導ブロックと灰色の床面では判別しづらい。デッキのみでも複数の色が利用されており、さらに突然色が変更になるのも良くないのではないか。【色覚／ロービジョン者】

○試作品に対する意見要旨

	EV サイン	ナンバリングサイン	誘導サイン
サインイメージ			
色覚関係者	・当該階を赤色で表示しているが、赤色だと認識はできない。また、階数表示の色のみで分けると3階以上では分かるが、2階までだとどこが現在地かということは分からない可能性がある。当該階を上部に表示するか、階の下に現在地などの表示を追加するなどの工夫が必要かもしれない。	・機能に応じてナンバリングサインを分けて表示することもあるが、その意味を浸透させることは難しいのではないか。そうすると、1パターンの方が良いのではないか。(出口、ナンバー、機能 (EV、階段等) → 「N 10 E」など) ・見え方については問題ない。ただ、設置する背景 (壁面) との関係も意識して枠をつけるなどの工夫は必要かもしれない。	・方面の下の青いラインにより英語表示が見えにくい印象となる。文字との重なりを少なくする、または青の色を薄くするなどの工夫が必要かもしれない。
ロービジョン者	・赤色表記の「2F」が見えにくい。他の部分や黄色着色は見やすい。 ・1F部分の誘導先に「北口バス」「北口タクシー」とあるが、これは「のりば」まで記載したほうが良いと思う。また、仮にこのEVに使用するならば、EVを降りた先に乗り場までの誘導サインが必要になる。	・上段の黄色地に黒文字が見やすい。 ・上段の黄色地は、周りがぼやけてしまって見にくい。中段・下段の白地のほうが見やすい。 ・路面に貼った場合も上段の表記は見やすくてよい。	・それぞれの矢印にかかる情報の範囲が分かりやすくてよい。 ・現在地を示す表示がわかりにくい。「ここは」などを足してもらえると分かりやすくなる。 ・主要施設についている青いマーカーの意味がよくわからなかった。また、文字とマーカーが重なっており、読みづらい。

【市内障害者団体】

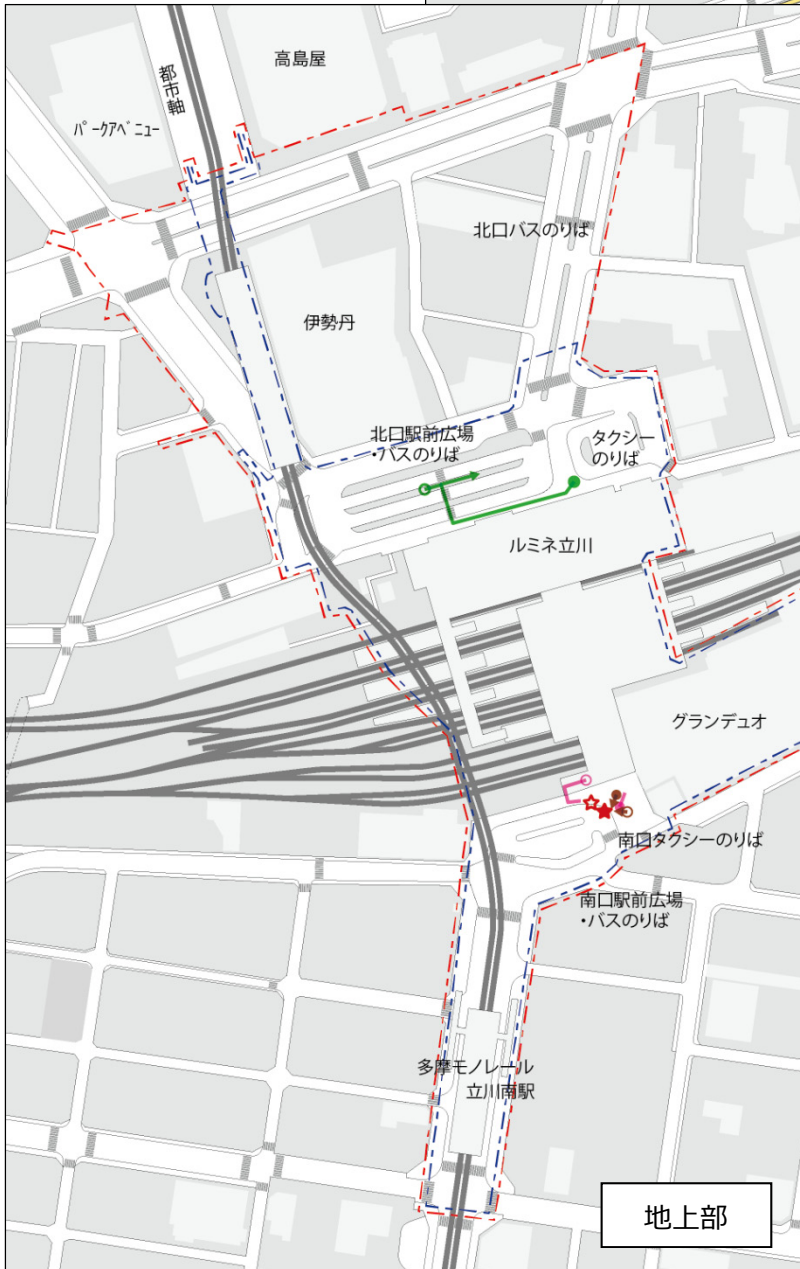
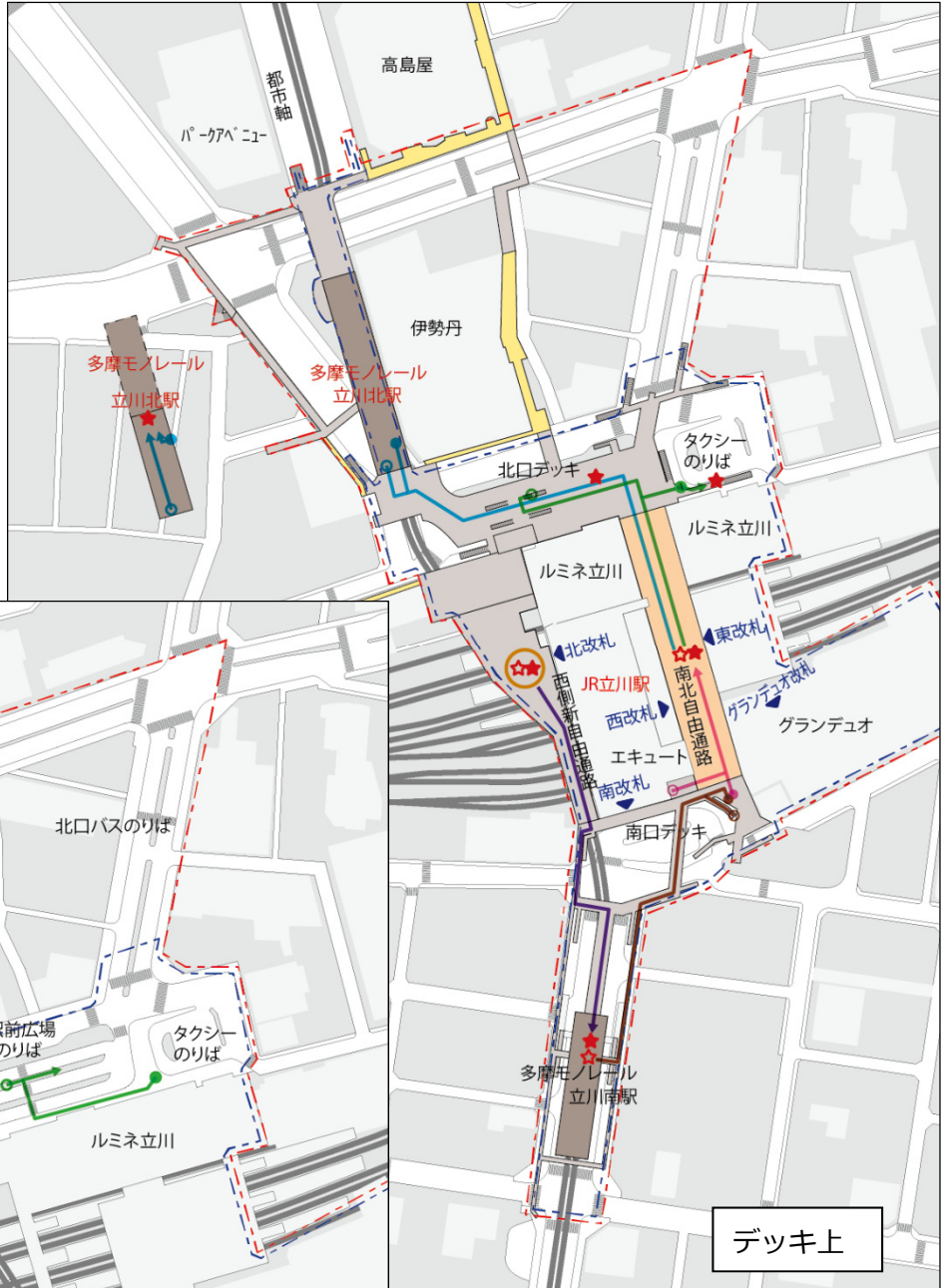
(1) 調査概要

調査日時	第 1 回	第 2 回
	2018 年 8 月 3 日 (金) 14 時 00 分～16 時 45 分	2018 年 10 月 10 日 (水) 10 時 00 分～11 時 40 分
参加者	合 計：21 名 障害者団体：13 名 ・知的障害者：1 名 ・視覚障害者（全盲）：2 名 ・聴覚障害者：1 名 ・車いす利用：2 名 ・介助者等：7 名 協議会委員：3 名 事務局等：5 名	合 計：19 名 障害者団体：9 名 ・知的障害者：1 名 ・視覚障害者（全盲）：2 名 ・車いす利用：1 名 ・介助者等：5 名 協議会委員：2 名 事務局等：8 名
調査場所	J R 立川駅北口周辺／3 ルート	J R 立川駅南口周辺／3 ルート
調査対象	① J R 立川駅（北改札） ② J R 立川駅（西・東改札） →北口バスのりば及びタクシーのりば ③ J R 立川駅（西・東改札） →多摩都市モノレール立川北駅	④ J R 立川駅（北改札） →多摩モノレール立川南駅 ⑤多摩モノレール立川南駅 →南口バス・タクシーのりば ⑥南口バス・タクシーのりば →J R 立川駅（西・東北改札）
	※障害の状況によりルート上で E V 及び階段に分かれて確認	
調査方法	設定した起点から目的地に向かうなかで、その移動を補助する既存の案内サイン等の状況を確認し、現地でのヒアリング及び調査後の意見交換により現況を把握。 	

(2) 主な確認事項

- ・サインに表示されている内容（情報量、図記号、文字、色彩等）
- ・サインの設置位置（場所、高さ等）
- ・周囲との関係性（見やすさ、外と内等）
- ・維持管理の状況（情報の更新、劣化、破損等）

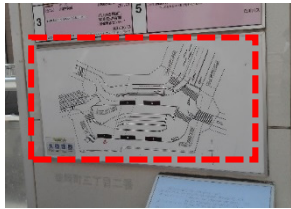
○調査対象ルート



(3) 主な意見要旨

項目	意見要旨（課題や要望等）
全体	・新設されたＪＲ立川駅北改札付近（西側新自由通路含む）は全体的にサイン表示も少なく、認知度も低い。【全体】 ・立川ターミナルは上下移動の方法や手段が複数あるが、それがどこにあるのかわからない。どのような手段（EV、エスカレーター、階段）かもあわせて表示して欲しい。【介助者】 ・バスのりばの番号による案内は、番号さえ理解しておけば、移動の手助けとして有効な手段になると思う。【知的】 ・数字やアルファベットを活用した案内は有効だと思う。ただし、組合せ等が複雑になると理解することが難しいケースもある。【知的】 ・同じ施設なのに施設名称が異なったり、マーク（ピクトグラム）の違いや有無などもあり、わかりづらい。【全体】 ・北口に比べて南口は全体的にサインが少ないと感じる。（主要ルートの分岐点等）【全体】 ・モノレール駅からＪＲ立川駅やバス・タクシーのりばへの案内・誘導が不足していると感じる。【全体】 
誘導サイン	・車いすでは、設置位置の高い吊り下げサインを見るのは困難である。柱や路面を活用して欲しい。【車いす】 ・吊り下げサインの一部がデッキ上屋で隠れてしまい見えづらい状況になっている。【全体】 ・一部の分岐点では誘導表示がないため、方向がわからなくなる。（北改札と立川北駅の分岐点、立川北駅の階段とEV利用等）【全体】 ・障害によっては複雑な誘導表示（鍵型の矢印など）は理解できないため、丁寧な誘導が必要になる。【知的】 ・柱などに目の届きやすい場所に、鉄道駅（改札口）や昭和記念公園などの主要な施設の誘導サインを記したほうが良いのではないか。【車いす】 ・劣化等の影響もあるが、白文字・白矢印の表記は屋根の下にあっても見づらい。黒文字、黒矢印のほうが目につきやすい。【聴覚】 ・南北自由通路の改札から見える上部の誘導サインは、意識していないと気付かないかもしれない。また、南北で表示が似ているのでわかりにくい。【全体】 ・矢羽タイプは表示位置が高すぎて気が付かない。支柱を太くするなど、視認性が高まる方法を考えた方が良い。【車いす】 ・いくつか通り名称が表示されているが、初めて訪れる人にとっては実用的ではない。近くに地図を設置し見比べられるようにするなど対応が必要ではないか。【知的】 

項目	意見要旨（課題や要望等）
地図サイン	・地図サインの表現が統一されていない。【全体】 ・地図の範囲が広すぎるため、エリアを狭めた拡大地図がほしい。【全体】 ・デッキ上のE Vやエスカレーター、トイレの情報が掲載されていない。【車いす】 ・情報量が多いからか、文字やピクトグラムが小さいものもあり見づらい。【車いす・聴覚】 ・現在地表記が地図の下側にあるため見つけづらい。【全体】 ・一部の施設が赤字表示になっている地図があるが、現在地も赤色表記のための探すのが困難である。【聴覚】 ・地図に多機能トイレの表記はあるが、公園のものしか表記されていない。鉄道駅やその周辺施設での設置及び利用可能なの有無を示す表記がないと実用的ではない。（場合によっては実際の表記があっても使わない、使えない）【車いす】 ・改札横に設置されているため、複数人が利用した場合は通行の妨げになってしまう。（誘導ブロックの利用者の妨げになる可能性有り）【全体】
位置サイン	・一定の統一感が必要ではないか。【車いす】 ・遠くからもその場所（位置）がわかると安心して移動できると思う。【知的】 ・多摩モノレール立川南駅の駅舎壁面に表示している位置サインが、南北自由通路側からは視認できるが、西側新自由通路からはモノレールの柱に隠れて視認しづらい。【全体】 ・JR 立川駅を見ると、「JR 立川駅」や「立川駅北口」と表示されているが、利用者にとってはその出口がどこなのか分かりやすく表記したほうが良いのではないか。（JR 立川駅〇〇改札、JR 立川駅〇〇口、自由通路名称等）【知的・介助者】

項目	意見要旨（課題や要望等）
バス関連	・バス案内については、のりばや系統などが別々の場所に設置されているため、利用しにくい。【全体】  のりば  系統  一部ののりばと系統 ・バス案内にバスののりばの地図が表示されているが、非常に見づらく、分かりづらい。デッキ上と地上部を色分けした地図にするなど、見やすくしてほしい。【知的・介助者】 ・複数の路線が同じ場所に行くケースもあるため、系統表示だけでなく路線図などで確認できた方が良い。【全体】 
その他	・聴覚障害では、常に周囲に目を配っているもので、路面表示では見えない可能性がある。【聴覚】 ・点検等でEVが使用不可の際に、他のEV使用の案内（文字と矢印のみ）があるが、明確な場所がわからないため、簡易的な地図などが欲しい。【車いす】 ・サインに既に廃止された案内用QRコードが表示されているケースがある。利用できないのであれば外しておいて欲しい。【車いす】 ・バスののりばが複数あるため、地上部への階段の手摺りなどに点字表記があると安心できる。【視覚】 ・南口のデッキ上のバス案内は、行先は点字で表示されているがバスののりばまでの道順が分からない。逆に、のりば案内（音声）だけではどの行先かが分からない状態である。それぞれのサインは近接しているが、セットで見ないと分からない。【視覚】 ・サインの近くまで誘導ブロックによる案内はあるが、その位置にサインがあることがわからないため、結局は利用できない。【視覚】 ・総合案内板などは触知だけでなく音声もセットにして欲しい。その際は、サインがここにあるなどの情報もあわせて伝えて欲しい。（感知センサーではわからないケースもある）【視覚】 ・触知サインが思った以上に設置されているが設置場所がわかりにくい。また、設置されていたとしても障害者の利用をイメージした設置となっていない。【視覚】 ・様々な障害者がいる中で全てに対応するのは難しい。そのため、障害者等が頼れる場（相談員等がいるなど）を設けるのは一つの手段ではないか。※ただし、その場所への案内は必須である。【視覚】 ・工事中の案内（階段の利用方法について）は、視覚障がい者からするとわからない。音声ガイドがあったほうが良い。（「奥の階段」という表現がどこの階段を指しているのか健常者でもわかりにくい）【車いす・視覚】

4. 利用者別の意見要旨

	来街者	市外障害者団体	
	(初めて立川駅を訪れた方)	色覚関係者	ロービジョン者
全体	・起点での情報提供が重要だと思う。(南北やバス案内等) ・周辺案内図と誘導サインがあれば目的地に辿り着けるような配置システムにして欲しい。 ・サインが全体的に少ない。(特にJR 立川駅北改札付近やバスに関する案内等)	・本来目立つべき色が目立たないケース(赤等)がある。そのため、気付くのに遅れたり、見落としてしまうこともある。 ・文字と地色が判断しやすい色彩を採用していると視認しやすい。(カラーユニバーサルデザインを踏まえた計画)	・転倒しないよう誘導ブロックをガイドに移動しているため、サイン等も目線の位置より下方にあると視認しやすい。 ・視野狭窄のため、サイン等は前方方向にあると視認しやすい。
地図(図解)サイン	・文字が小さくならないような情報量で表現して欲しい。 ・駅周辺の情報を知るには掲載範囲が広すぎる。 ・多くのバスの発着があるなかでバスのりば等の案内が少ない。	・地図内で機能に応じて色や模様で表現しているが、近づかないと判断できない。 ・現在地など、本来目立たせるための表示が、他の表現と同化することで目立っていない。	・上下移動が多い駅のため、駅周辺の地図サインでは、デッキと地上部の二種類のサインが必要だと思う。 ・情報量が多いと、見ようという気にならない。
誘導(指示)サイン	・誘導ルートから外れないように、連続性を担保したサイン配置をして欲しい。 ・外国人等の利用も想定し、ピクトグラムなどを活用したシンプルな誘導サインが分かりやすい。 ・北口・南口にある交通施設が似ているためサイン表示を含めて利用時に判断しにくい。	・同方向の誘導する場合において、区分線で分かれてしまっていると判断しにくい。	・同方向を誘導する場合において、区分線で分かれてしまっていると判断しにくい。 ・方向ごとの区分線があると判断しやすい。また、その区分が明確(線幅を太くする等)であればより分かりやすい。
位置(同定)サイン	・主要な目的地に成り得る場所は、遠くからも視認しやすい場所に設置して欲しい。	・サイン本体と背景の色が同化してしまうケースがある。枠で囲うなどで判断しやすくなる場合もある。 ・現在地がわかるような表現方法にして欲しい。(EVサインの階数の表現など)	・サイン本体と背景の色が同化してしまうケースがある。 ・大きな表現は遠くからは視認しやすいが、近いと視野狭窄のためすべてを見ることができない。
その他	・距離表示だけでなく、時間の目安を表示されると利用しやすい。 ・進行方向に並行して設置されていると、サインに気付かないケースがある。	・内照を活用すると見やすい一方で、室内の照明が明るいと見づらくなる場合がある。 ・多数の色で表現すると意味を理解するのに難しいケースもあるため、シンプルな形で表現した方が良い。	・照明方法にメリット、デメリットがあるため、その点を踏まえた仕様にして欲しい。 ・照明を利用した広告があると、そちらに注意が行き、サインに気付かないケースがある。 ・過度に明るいサインの場合はかえって視野を狭めてしまう。

	市内障害者団体			
	車イス	聴覚	知的	視覚（全盲）
全体	・設置位置が高い場合は視認することが難しい。	・移動時（初めての場所は特に）は視覚に集中するため、目線の位置が一番視認しやすい。	・情報量が多いと認識しづらいため、マークや数字などの表現であると理解しやすい。 ・漢字のみだと認識できないため、振り仮名があると良い。	・触知や音声の機能があっても、その位置がわからないと利用できない。 ・介助者が同行する際に、地上部との移動方法（EV、階段等）がわかると良い。
地図（図解）サイン	・EV や多機能トイレなどの利用時の手助けとなる情報を提供して欲しい。 ・地図の掲載範囲が大きいと上部（高い位置）までは視認できない。	・情報量が多いことで、文字が小さくなってしまい視認しづらい。	・現在地の表記を発見しづらい場合がある。（現在地以外にも赤色が多数利用されている。掲載地図の下段に現在地があるなど）	・設置位置が誘導ブロック上にあることで、地図の利用者が通行上の妨げになってしまう。
誘導（指示）サイン	・分岐点には路面や柱など、視認しやすい位置に設置して欲しい。	・新設された通路を含め、大きな分岐点には誘導表示を追加して欲しい。	・鍵型など複雑な矢印表記だと判断できないケースがあるため、シンプルな表示にて欲しい。 ・初めての利用者にとって、通り名など実用的でない目的地の表記は控えた方が良い。	・階段の手摺りなどに点字表記があると移動の手助けとなる。
位置（同定）サイン	・一定の統一感を持った表現が良い。 ・正面に来ないと位置がわからないケースがあるため、突出看板などで遠くから確認できると良い。	—	・同じ施設、場所の場合は、表示内容が統一されていると分かりやすい。 ・比較的遠い位置からでも視認しやすい場所があると安心して移動できる。	—
その他	・点検時に EV 利用ができない場合等でも次の行動にスムーズに対応できるように表示にして欲しい。 ・サインでは表現には限界があるため、配布用のマップ等での対応が必要になると思う。	・バス案内は、車内で音声情報が得られないため、路線図があると利用しやすい。 ・手話・筆談のマークがあるため対応可能な場合はマークを表示して欲しい。	・バスのりば案内がデッキと地上部が同じ地図に表記されているため、分かりづらくなっている。	・バスの方面案内（点字）とのりば案内（音声）の設置場所が離れており、利用しづらい。 ・全ての障害者への対応は難しいため、障害者等が頼れる場を設けても良い。